

# マクロ・トータル・リターン・ファンド

追加型投信／内外／資産複合／特殊型（絶対収益追求型）

作成対象期間：2023年6月6日～2023年12月4日

第 15 期 決算日：2023年12月4日

## 受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。  
当ファンドは、日本を含む世界各国の株式、債券および通貨に係る取引を含むデリバティブ取引等の幅広い資産を実質的な主要投資対象とし、特定の市場に左右されることなく収益の獲得を目的としています。ここに運用状況をご報告申し上げます。

当ファンドが受益者のみなさまの資産形成に資するよう、運用に努めてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

### 第15期末（2023年12月4日）

基準価額	8,573円
純資産総額	4,946百万円
騰落率	-7.6%
分配金合計 <sup>(*)</sup>	0円

(\*) 当期間の合計分配金額です。

当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めており、以下の方法でご覧いただけます。運用報告書（全体版）は、受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

閲覧・ダウンロード方法



<https://www.am.mufg.jp/>

[ファンド検索] に  
ファンド名を入力

各ファンドの詳細ページで  
閲覧およびダウンロード

 **MUFG** 三菱UFJアセットマネジメント

東京都港区東新橋一丁目9番1号  
ホームページ <https://www.am.mufg.jp/>

### ■当運用報告書に関するお問い合わせ先

お客さま専用  
フリーダイヤル  **0120-151034**

（受付時間：営業日の9：00～17：00、土・日・祝日・12月31日～1月3日を除く）

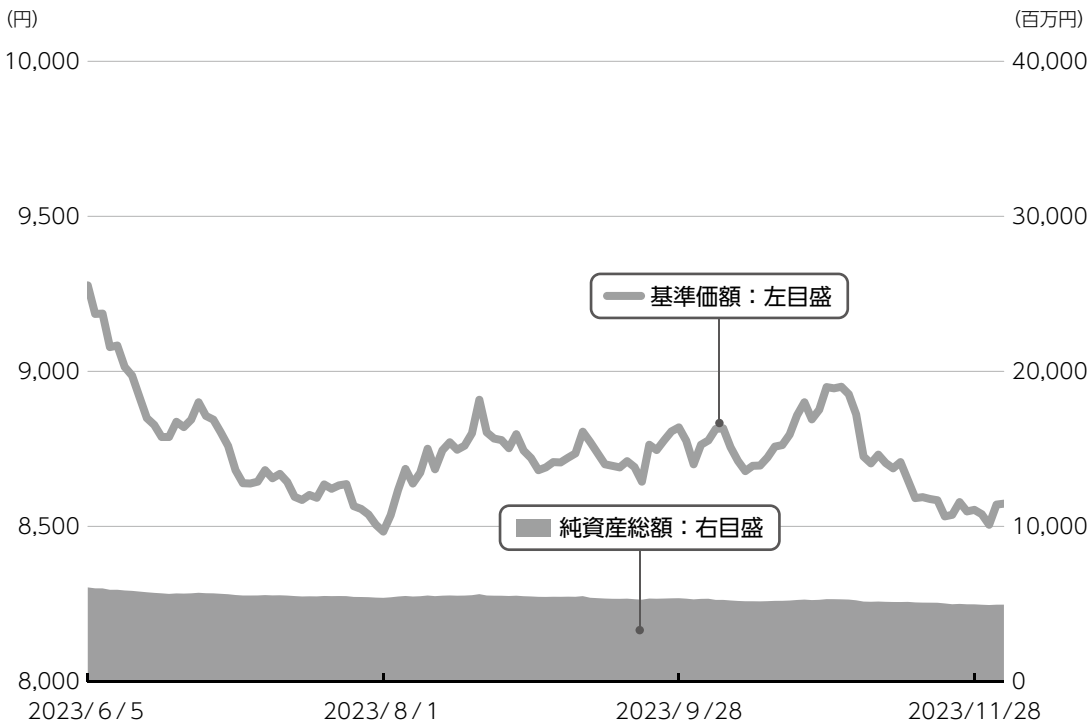
お客さまのお取引内容につきましては、お取扱いの販売会社にお尋ねください。

# 運用経過

第15期：2023年6月6日～2023年12月4日

## ▶ 当期中の基準価額等の推移について

### 基準価額等の推移



第15期首	9,277円
-------	--------

第15期末	8,573円
-------	--------

既払分配金	0円
-------	----

騰落率	-7.6%
-----	-------

※分配金再投資基準価額は、分配金が支払われた場合、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

※実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかについては、受益者のみなさまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人の受益者のみなさまの損益の状況を示すものではない点にご留意ください。

### 基準価額の動き

基準価額は期間の初めに比べ7.6%の下落となりました。

### ▶ 基準価額の変動要因

#### 下落要因

デリバティブ戦略などがマイナスに影響しました。

2023年6月6日～2023年12月4日

## 1万口当たりの費用明細

項目	当期		項目の概要
	金額 (円)	比率 (%)	
(a) 信託報酬	54	0.618	(a) 信託報酬 = 期中の平均基準価額 × 信託報酬率 × (期中の日数 ÷ 年間日数)
（投信会社）	(19)	(0.219)	ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等の対価
（販売会社）	(33)	(0.383)	交付運用報告書等各種書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等の対価
（受託会社）	(1)	(0.016)	ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
(b) その他費用	0	0.001	(b) その他費用 = 期中のその他費用 ÷ 期中の平均受益権口数
（監査費用）	(0)	(0.001)	ファンドの決算時等に監査法人から監査を受けるための費用
合計	54	0.619	

期中の平均基準価額は、8,733円です。

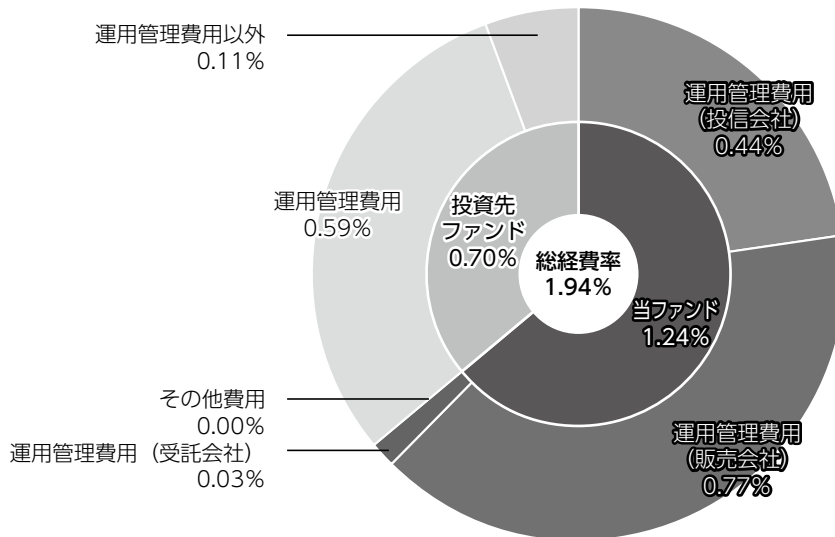
- (注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。
- (注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
- (注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

- (注) 各項目の費用は、このファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）が支払った費用を含みません。
- (注) 当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入れ上位ファンドの概要」に表示することとしております。
- (注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

## (参考情報)

## ■ 総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した**総経費率（年率）は1.94%**です。



総経費率 (①+②+③)	(%)	1.94
①当ファンドの費用の比率	(%)	1.24
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	(%)	0.59
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	(%)	0.11

(注) ①の費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、このファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

(注) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 投資先ファンドの費用の内訳は、投資先運用会社の基準に基づいたものです。

(注) 入手し得る情報において含まれていない費用はありません。

(注) 前記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

2018年12月3日～2023年12月4日

## 最近5年間の基準価額等の推移について



※分配金再投資基準価額は、2018年12月3日の値を基準価額と同一となるように指数化しています。

## 最近5年間の年間騰落率

	2018/12/3 期初	2019/12/3 決算日	2020/12/3 決算日	2021/12/3 決算日	2022/12/5 決算日	2023/12/4 決算日
基準価額 (円)	9,888	9,743	10,306	10,315	9,064	8,573
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	0	350	600	0	0
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	-1.5	9.4	5.9	-12.1	-5.4
純資産総額 (百万円)	12,104	9,891	8,192	7,039	8,122	4,946

※ファンド年間騰落率は、収益分配金（税込み）を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

当ファンドの値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。

第15期：2023年6月6日～2023年12月4日

## 投資環境について

### 【株式】

日本を含む先進国の株式市況は、期間の初めから2023年7月末頃にかけては、米連邦準備制度理事会（FRB）による年内の追加利上げ懸念が後退したことや、一部企業が良好な決算を発表したことなどを受けて、上昇しました。8月から10月末頃にかけては、米国の堅調な経済指標などを背景とした米長期金利の上昇や中東の地政学リスクの高まりなどを受けて、下落しました。その後は、米長期金利の低下などを受けて株価は上昇しました。新興国の株式市況は上昇しました。

### 【債券】

国内の債券市況は、日銀による金融政策修正への思惑などから下落しました。

海外先進国の債券市況は、期間の初めから2023年10月後半にかけて、主要中銀による金融引き締め長期化観測が強まったことなどを背景に下落基調で推移しました。その後は、主要中銀による政策金利の据え置き決定やインフレ鈍化を示す一部経済指標の結果などを受けて上昇しました。

新興国の債券市況は上昇しました。

### 【オルタナティブ】

国内不動産投資信託（リート）市況は、国内における金融緩和政策の継続観測などが上昇要因となった一方、米国金利の上昇などが下落要因となり、当該期間において小幅な値動

きになりました。

海外先進国のリート市況は、期間の初めから2023年10月頃にかけて、米国の金融引き締めの長期化観測を受けた米国金利の上昇や景気減速懸念などを背景に下落基調で推移しました。その後は、米長期金利の低下などを受けて上昇しました。

原油は、期間の初めから9月頃にかけて、産油国の供給削減などを受けて上昇基調で推移しました。その後は、世界経済の成長が鈍化し原油需要が伸び悩むとの見方が強まったことなどから下落しました。

金価格は、中東の地政学リスクの高まりなどを背景に、投資家のリスク回避姿勢が強まったことなどから上昇しました。

### 【為替】

為替市場では、米ドルは米国長期金利の上昇による日米金利差拡大などから円に対して上昇しました。ユーロは対円で上昇しました。

### 【国内短期金融市場】

当期間の短期金融市場をみると、日銀は長短金利を操作目標として金融市場調整を行いました。コール・レート（無担保・翌日物）はマイナス圏で推移し、足下のコール・レートは-0.013%となりました。

## ▶ 当該投資信託のポートフォリオについて

### ▶ マクロ・トータル・リターン・ファンド

外国投資法人である「JPMorgan・インベストメント・ファンズ・グローバル・マクロ・オポチュニティーズ・ファンド」の投資信託証券「JPMグローバル・マクロ・オポチュニティーズ・ファンド（Iクラス）（円建て、円ヘッジ）」を高位に組入れました。また、マネー・マーケット・マザーファンド投資信託証券への投資も行いました。

### ▶ JPMグローバル・マクロ・オポチュニティーズ・ファンド（Iクラス）（円建て、円ヘッジ）

日本を含む世界各国の株式、債券および通貨に係る取引を含むデリバティブ取引等の幅広い資産を実質的な主要投資対象とし、特定の市場に左右されることなく収益の獲得をめざしました。

運用にあたっては、グローバルなマクロ環境に関する複数のテーマを選定し、当該テーマに沿った個別投資戦略を組み合わせることで運用を行い、絶対収益の追求をめざしました。

株式戦略について、金融引き締めの影響が、経済活動の重石となることが予想されることなどを背景に、ディフェンシブなエクスポージャーを維持しました。

日銀の金融政策の修正に対する見通しな

どから、日本の金融セクター株式などをロングポジションとしました。

債券戦略について、米国金利が上昇したことなどを背景に、2023年7月後半に米国のデュレーションのロングポジションを解消しました。その後も機動的にデュレーションのポジションを調整し、デュレーションのロングポジションは限定的となりました。

通貨戦略について、一時ポジションを調整した期間があったものの、期間を通して見ると、概ね米ドルと日本円のロングを維持しました。加えて、軟調な中国の一部経済指標などを背景に、期間の初めから8月頃まで豪ドルや韓国ウォンなどの中国経済との連動性が高い通貨をショートポジションとしました。

デリバティブ戦略では、ポートフォリオのリスク調整などを背景に、機動的にポジションを調整し、デリバティブによる株式のショートポジションを維持しました。

外国投資法人の運用は、J. P. モルガン・アセット・マネジメントが行いました。

原則として、為替取引を行うことで円に対するユーロの為替変動リスクの低減をはかりました。



### ▶ マネー・マーケット・マザーファンド

コール・ローン等短期金融商品を活用し、  
利子等収益の確保をめざした運用を行いました。

### ▶ 当該投資信託のベンチマークとの差異について

当ファンドの値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。  
従って、ベンチマークおよび参考指数との対比は表記できません。

### ▶ 分配金について

収益分配金につきましては、基準価額水準、市況動向、分配対象額の水準等を勘案し、次表の通りとさせていただきます。収益分配に充てなかった利益（留保益）につきましては、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用します。

### 分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり、税込み)

項 目	第15期 2023年6月6日～2023年12月4日
当期分配金（対基準価額比率）	－（－％）
当期の収益	－
当期の収益以外	－
翌期繰越分配対象額	263

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

## 今後の運用方針 (作成対象期間末での見解です。)

### ▶ マクロ・トータル・リターン・ファンド

外国投資法人である「JPMオルガン・インベストメント・ファンズ・グローバル・マクロ・オポチュニティーズ・ファンド」の投資信託証券「JPMグローバル・マクロ・オポチュニティーズ・ファンド（Iクラス）（円建て、円ヘッジ）」を高位に組み入れます。またマネー・マーケット・マザーファンド投資信託証券への投資も行います。

### ▶ JPMグローバル・マクロ・オポチュニティーズ・ファンド（Iクラス）（円建て、円ヘッジ）

日本を含む世界各国の株式、債券および通貨に係る取引を含むデリバティブ取引等の幅広い資産を実質的な主要投資対象とし、特定の市場に左右されることなく収益の獲得をめざします。

運用にあたっては、グローバルなマクロ環境に関する複数のテーマを選定し、当該テーマに沿った個別投資戦略を組み合わせ、運用を行い、絶対収益の追求をめざします。

外国投資法人の運用は、J. P. モルガン・アセット・マネジメントが行います。原則として、為替取引を行うことで円に対するユーロの為替変動リスクの低減をはかります。

### ▶ マネー・マーケット・マザーファンド

今後も日銀による金融緩和政策が継続すると想定されることから、短期金利は引き続き低位で推移すると予想しています。以上の見通しにより、コール・ローン等への投資を通じて、安定した収益の確保をめざした運用を行う方針です。

# お知らせ

## ▶ 約款変更

- ・委託会社の商号変更に対応するため、信託約款に所要の変更を行いました。  
2023年10月1日より商号を三菱UF Jアセットマネジメント株式会社に変更しました。  
(2023年10月1日)

## ▶ その他

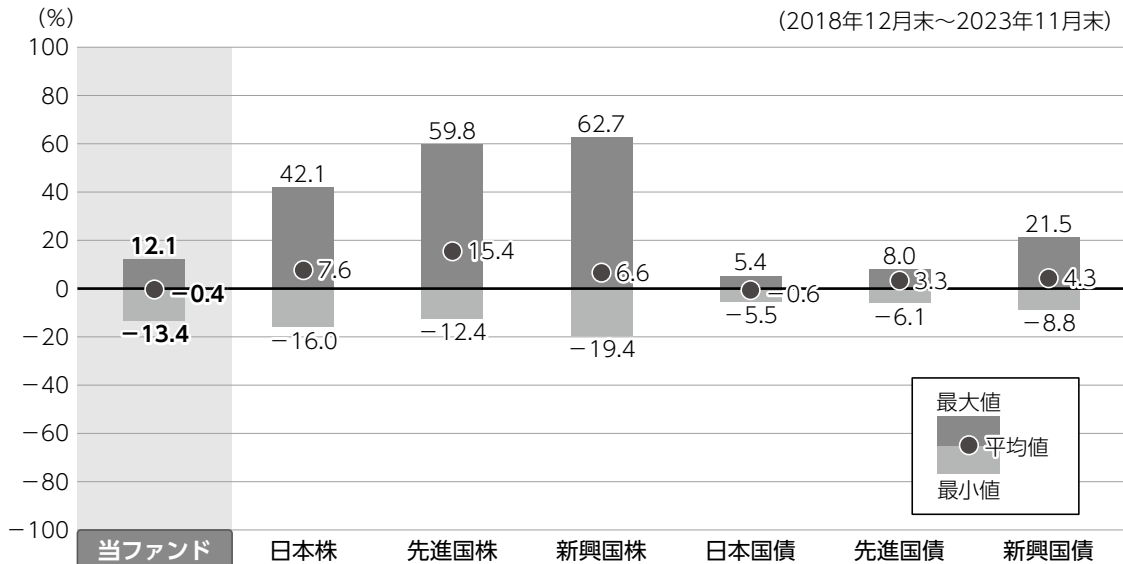
- ・該当事項はありません。

\*本書が、受益者のみなさまのお手元に届くのは作成対象期間末から2ヵ月以上が経過していることにご留意ください。  
なお、最近の運用状況や約款変更の内容等は当社ホームページ (<https://www.am.mufg.jp/>) にて開示を行っている場合があります。

# 当該投資信託の概要

商品分類	追加型投信／内外／資産複合／特殊型（絶対収益追求型）
信託期間	2026年6月3日まで（2016年6月21日設定）
運用方針	<p>外国投資法人であるJPMorgan・インベストメント・ファンズグローバル・マクロ・オポチュニティーズ・ファンドの投資信託証券（JPMグローバル・マクロ・オポチュニティーズ・ファンド（Iクラス）（円建て、円ヘッジ））への投資を通じて、日本を含む世界各国の株式、債券ならびに通貨に係る取引を含むデリバティブ取引等の幅広い資産（不動産投資信託証券、コモディティ・インデックスおよび転換証券等を含みます。）に投資を行います。なお、証券投資信託であるマネー・マーケット・マザーファンドの投資信託証券への投資も行います。</p> <p>外国投資法人の投資信託証券への投資は、高位を維持することを基本とします。</p> <p>外国投資法人において、ユーロ以外の通貨建て資産に投資する部分について、各当該通貨売りユーロ買いの為替取引を行うことがあります。また、投資する投資信託証券においては、原則として当該投資信託証券の純資産総額をユーロ換算した額とほぼ同額程度のユーロ売り円買いの為替取引を行い、円に対するユーロの為替変動リスクの低減をはかります。</p>
主要投資対象	<p>■当ファンド</p> <p>JPMグローバル・マクロ・オポチュニティーズ・ファンド（Iクラス）（円建て、円ヘッジ）およびマネー・マーケット・マザーファンドの投資信託証券を主要投資対象とします。</p> <p>■JPMグローバル・マクロ・オポチュニティーズ・ファンド（Iクラス）（円建て、円ヘッジ）</p> <p>直接ないしデリバティブ取引等を通じて、世界各国の株式、債券等に投資します。また、預金、短期金融資産、リート、コモディティ・インデックスおよび転換証券等へ投資を行うことがあります。</p> <p>■マネー・マーケット・マザーファンド</p> <p>わが国の公社債等を主要投資対象とします。外貨建資産への投資は行いません。</p>
運用方法	日本を含む世界各国の株式、債券およびデリバティブ取引等の幅広い資産を実質的な主要投資対象とし、特定の市場に左右されることなく収益の獲得をめざします。
分配方針	経費等控除後の配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額を分配対象額とし、分配金額は、基準価額水準、市況動向等を勘案して委託会社が決定します。原則として、決算日の基準価額水準が当初元本額10,000円（10,000口当たり）を超えている場合に、当該超過分の範囲内で分配します。ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。

# ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



●上記は、2018年12月から2023年11月の5年間における1年騰落率の平均・最大・最小を、ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて定量的に比較できるように作成したものです。

## 各資産クラスの指数

日本株	東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)
先進国株	MSCI コクサイ・インデックス (配当込み)
新興国株	MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み)
日本国債	NOMURA-BPI (国債)
先進国債	FTSE世界国債インデックス (除く日本)
新興国債	JPMorgan Global Diversified

※詳細は最終ページの「指数に関して」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。

●全ての資産クラスがファンドの投資対象とは限りません。

●ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

●騰落率は直近前月末から60ヵ月遡った算出結果であり、ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。

# 当該投資信託のデータ

2023年12月4日現在

## ▶ 当該投資信託の組入資産の内容

### 組入ファンド

(組入銘柄数：2銘柄)

ファンド名	第15期末 2023年12月4日
JPMグローバル・マクロ・オポチュニティーズ・ファンド (Iクラス) (円建て、円ヘッジ)	99.0%
マネー・マーケット・マザーファンド	0.0%

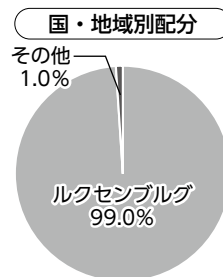
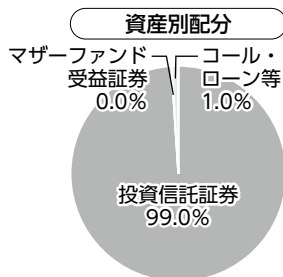
※比率は当ファンドの純資産総額に対する各投資信託証券の評価額の割合です。

### 純資産等

項目	第15期末 2023年12月4日
純資産総額 (円)	4,946,065,513
受益権口数 (口)	5,769,120,840
1万口当たり基準価額 (円)	8,573

※当期中において追加設定元本は61,003,555円  
同解約元本は 822,272,498円です。

### 種別構成等



※比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。構成比率が5%未満の項目は「その他」に分類しています。

※国・地域別配分の「その他」には、コール・ローン等のように、複数の金融機関等（国内外）を相手先とし他のファンドの余剰資金等と合せて運用しているものを含みます。

※【国・地域別配分】、【通貨別配分】は、組入ファンドの発行地、発行通貨を表示しています。

2022年12月31日現在

## 組入上位ファンドの概要

## ▶ JPMグローバル・マクロ・オポチュニティーズ・ファンド（Iクラス）（円建て、円ヘッジ）

## 基準価額の推移

2021年12月31日～2022年12月31日



基準価額の推移以外の開示情報につきましては、クラス分けされたものがないため、外国投資法人の「JPMorgan・インベストメント・ファンズ・グローバル・マクロ・オポチュニティーズ・ファンド」ベースで表示しています。

## 1万口当たりの費用明細

2022年1月1日～2022年12月31日

1万口当たりの費用明細に相当する情報がないため、開示できません。

## ▶ JPモルガン・インベストメント・ファンズ・グローバル・マクロ・オポチュニティーズ・ファンド

## 組入上位10銘柄（ロングポジション）

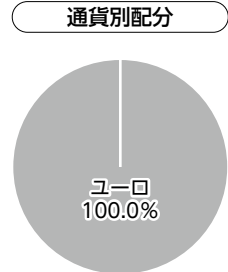
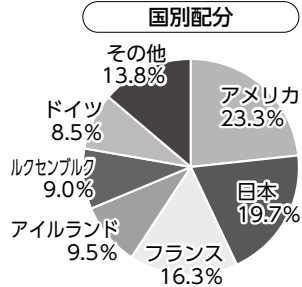
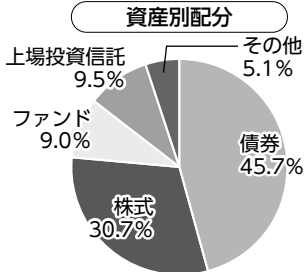
（組入銘柄数：34銘柄）

	銘柄	種類	国	比率(%)
1	JPMorgan EUR Liquidity LVNAV Fund- JPM EUR Liquidity LVNAV X (flexdist.)	ファンド	ルクセンブルク	9.0
2	Japan Treasury Bill 0% 06/01/2023	債券	日本	5.5
3	Japan Treasury Bill 0% 06/03/2023	債券	日本	5.2
4	Germany Treasury Bill, Reg. S 0% 22/03/2023	債券	ドイツ	5.1
5	France Treasury Bill BTF, Reg. S 0% 01/02/2023	債券	フランス	4.8
6	iShares Physical Gold ETC	上場投資信託	アイルランド	4.7
7	Invesco Physical Gold ETC	上場投資信託	アイルランド	4.7
8	France Treasury Bill BTF, Reg. S 0% 01/03/2023	債券	フランス	4.4
9	Japan Treasury Bill 0% 13/02/2023	債券	日本	4.4
10	France Treasury Bill BTF, Reg. S 0% 04/01/2023	債券	フランス	4.1

※比率は外国投資法人の純資産総額に対する割合です。

※なお、全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）でご覧いただけます。

## 種別構成等



※比率は外国投資法人の純資産総額に対する割合です（派生商品を除く）。構成比率が5%未満の項目は「その他」に分類しています。

※資産別配分の「その他」は現金・預金・その他資産（負債控除後）です。

※国別配分は発行国を表示しています。国別配分の「その他」には現金・預金・その他資産（負債控除後）を含みます。

※通貨別配分は、アニュアルレポートに開示されていないため、外国投資法人の建値通貨を表示しています。



968469

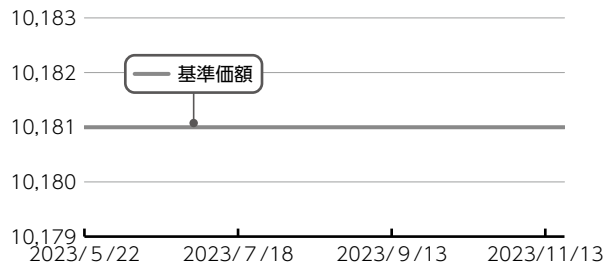
2023年11月20日現在

組入上位ファンドの概要

マネー・マーケット・マザーファンド

基準価額の推移

2023年5月22日～2023年11月20日  
(円)



1万口当たりの費用明細

2023年5月23日～2023年11月20日  
当期において費用が発生していないため、費用明細は作成しておりません。

組入上位10銘柄

(組入銘柄数：4銘柄)

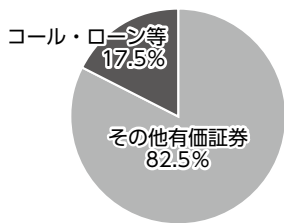
順位	銘柄	種類	国・地域	業種/種別	比率(%)
1	ニッサンジドウシャ 231121	其他有価証券	日本	コマーシャル・ペーパー	58.9
2	ホンダF 231121	其他有価証券	日本	コマーシャル・ペーパー	14.7
3	グンゼ 231121	其他有価証券	日本	コマーシャル・ペーパー	5.9
4	アミカスF 231121	其他有価証券	日本	コマーシャル・ペーパー	2.9
5					
6					
7					
8					
9					
10					

※比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。  
※原則、国・地域については、発行地を表示しています。

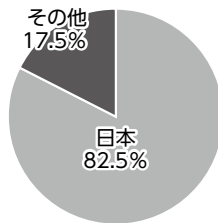
※なお、全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)をご覧ください。

種別構成等

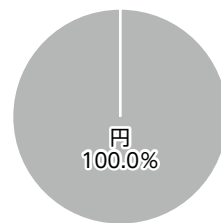
資産別配分



国・地域別配分



通貨別配分



※比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。  
構成比率が5%未満の項目は「その他」に分類しています。  
※原則、国・地域については、発行地を表示しています。

※国・地域別配分の「その他」には、コール・ローン等のように、複数の金融機関等(国内外)を相手先とした他のファンドの余剰資金等と合わせて運用しているものを含みます。

# 指数に関して

## ▶ 「ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較」に用いた指数について

### ●東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

東証株価指数（TOPIX）（配当込み）とは、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、浮動株ベースの時価総額加重方式により算出される株価指数です。TOPIXの指数値及びTOPIXに係る標章又は商標は、株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社（以下「JPX」という。）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用などTOPIXに関するすべての権利・ノウハウ及びTOPIXに係る標章又は商標に関するすべての権利はJPXが有します。

### ●MSCI コクサイ・インデックス（配当込み）

MSCI コクサイ・インデックス（配当込み）とは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。また、MSCI コクサイ・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

### ●MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み）

MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み）とは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、世界の新興国で構成されています。また、MSCI エマージング・マーケット・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

### ●NOMURA-BPI（国債）

NOMURA-BPI（国債）とは、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が発表しているわが国の代表的な国債パフォーマンスインデックスで、NOMURA-BPI（総合）のサブインデックスです。当該指数の知的財産権およびその他一切の権利は同社に帰属します。なお、同社は、当該指数の正確性、完全性、信頼性、有用性、市場性、商品性および適合性を保証するものではなく、当該指数を用いて運用されるファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。

### ●FTSE世界国債インデックス（除く日本）

FTSE世界国債インデックス（除く日本）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。FTSE Fixed Income LLCは、本ファンドのスポンサーではなく、本ファンドの推奨、販売あるいは販売促進を行っておりません。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。

### ●JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド

JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイドとは、J. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが算出し公表している指数で、現地通貨建てのエマージング債市場の代表的なインデックスです。現地通貨建てのエマージング債のうち、投資規制の有無や、発行規模等を考慮して選ばれた銘柄により構成されています。当指数の著作権はJ. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属します。



三菱UFJアセットマネジメント